

演 題 名：豚の顎関節付近に認められた胸腺の 1 例

発表者氏名：山田 悟、中山 智之、林 和史

発表者所属：滋賀県食肉衛生検査所

- 1 . はじめに：平成 22 年 11 月 24 日、と畜検査において豚の顎関節付近にメラニン顆粒が散在した胸腺が確認されたので報告する。メラノサイトを含有している胸腺の発見とその胸腺の発達部位が顎関節付近まで確認された事例である。
- 2 . 動物名：豚(県内産)、品種：LWD、性別：牝、月齢：6 ヶ月齢
- 3 . 生体所見：一般畜として搬入され、特に著変は認めなかった。
- 4 . 解体検査：

頭部検査において、左顎関節付近表面に、2.0~3.0mm の黒褐色異物が散在する腫瘤(4×2×2cm大)を認めた。切開すると異物は内部にも均一に認められ、正常部分とは境界明瞭で硬結感は認めなかった。この時点で腫瘤の位置から耳下腺リンパ節の異常を疑い、他の頭部リンパ節、全身リンパ節の検査を行ったところ、異常は認めなかった。

内臓検査結果は血液吸入肺で肺全部廃棄した。枝肉検査異常を認めず。

- 5 . 組織所見：定法に基づき、HE 染色を行い組織構造を観察したが、皮質と髄質を認めるのみで組織を確定出来ないため、麻布大学獣医学部病理学研究室に材料の鑑定依頼を行った。鑑定結果は、ハッサル小体と小葉構造を認めた為、当該腫瘤を胸腺と診断。併せて、黒褐色の色素顆粒を含んだ細胞が認める。本細胞は、胸腺髄質にあたるような部分に限局して分布し、ヒトデのように複数の突起を持つ。腫瘍細胞や異物の吸収は認められなかった。色調、性状、この細胞の形態から黒褐色の色素顆粒はメラニンと推定し、特殊染色、免疫組織学的染色を実施する。フォンタナ・マッソン染色で黒褐色に染まり、漂白法では漂白される。S - 100 を用いた免疫染色では本細胞は細胞質、核が陽性反応を示す。よって、色素をメラニンと同定し、保有細胞の形態と考え合わせて、メラノサイト(メラニン産生細胞)として黒色症と診断する。

6 . 病理学的診断名：黒色症(メラノーシス)

行政措置：一部廃棄

考察

反芻類家畜や豚の胸腺は、大きく発達し胸部では左右の葉が一個にまとまって、胸葉となり、おのおの気管の側方を頸静脈に沿い、前端がさらに上行して咽頭近くまで及ぶことは、成書に記述されている。ところが、咽頭よりもさらに頭部寄りの顎関節付近にまで胸腺が発達している事例に遭遇した。メラノサイトを含有する胸腺について、他のリンパ系組織には認めず、一箇所のみ認められたことは、先天性の遺伝的要因としては、父豚がデュロックであることで体毛の褐色色素の影響、後天的要因としては、左耳の耳標の有無や怪我の有無等が考えられる。鑑定依頼した麻布大学病理学教室から、確認部位も含めて解剖学的に非常に興味深いとのコメントを頂いた。特にメラノーシスとメラノーマの鑑別は困難なことが多く、今後、引き続き情報収集に努めたい。